

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成26年10月7日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第一会議室(小白川キャンパス、事務局3階)

発 表 事 項

1. 山形大学蓄電デバイス開発研究センター(飯豊拠点)の設置について
2. 三菱総研DCS株式会社と連携協定を締結
3. リーダーシップ教育を「社会人力育成山形講座」とキャリアサポートセンターが協同で実施
4. 化学の日に化学実験
5. 山形大学八峰祭の開催について

お 知 ら せ

1. ARKEMA(アルケマ)社と山形大学との連携調印セレモニー、臨時学長記者会見の開催
2. 未来をつくる”meeting”参加者募集
3. 農学部研究シーズ説明会・ビジネスマッチの開催
4. 保健管理センター公開講座「生活習慣病について—概要と対策—」の開催
5. オーストラリアの最先端大型電波望遠鏡を山形から操作し、リアルタイムの研究を体験する高校生のためのワークショップの開催
6. 山形大学人事異動(平成26年10月1日)

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成26年10月22日(水)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成26年10月7日
飯 豊 町
山 形 銀 行
山 形 大 学

山形大学蓄電デバイス開発研究センター（飯豊拠点）の設置について

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンターの蓄電デバイス部門では、現在、リチウムイオン電池の材料研究を米沢市（有機エレクトロニクスイノベーションセンター及び蓄電デバイス開発研究センター）で行っておりますが、このたび、リチウムイオン電池の試作評価研究を飯豊町で行うこととなりました。

飯豊拠点の設置の目的、概要等は、以下のとおりです。

1 設置の目的、ねらい

- 蓄電デバイスの開発実用化を通じて、山形大学、飯豊町、山形銀行、産業技術総合研究所関西センター、企業が連携し、「ヒト・モノ・カネ・情報」が集まる仕組みづくり
- 山形大学と装置メーカーなど国内企業がコンソーシアムを形成し、ユーザーが求める電池性能設計、商品化するという新しいビジネスモデルの創造
- 蓄電関連企業の集積地形成
- 農山村再生に向けたプロジェクト

2 拠点の概要

- 場 所 旧株式会社LDF山形工場跡地（飯豊町萩生地内）
- 施設整備主体 飯豊町、山形大学
- 事業内訳 ○全体事業費（15億円）
○施設整備の概要
 - ・開発研究施設の整備（RC造 約1,200㎡）
 - ・既存施設の改修（約1,300㎡）
 - ・装置等の整備
- 実施時期 平成26年度～平成27年度事業（平成28年4月開所予定）

3 見込まれる効果

- 共同研究による企業、研究者の集積、雇用の創出
- 町内外企業との交流・連携
- 地元小、中、高校生の体験学習等通した未来の研究者の養成
- 町内産業への経済効果



（お問い合わせ）

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター事務室 渡邊 電話 0238-29-0566	飯豊町商工観光課 電話0238-87-0523	株式会社山形銀行 広報室 菊地 電話 023-623-1221（代表）
--	----------------------------	---

平成26年10月7日
山形大学

三菱総研DCS株式会社と連携協定を締結

山形大学は、教育に関するデータサイエンス（ビッグデータ、マーケティング手法等）を大学教育の改善に活かすため、また、当該領域の人材育成を行うため、三菱総研DCS株式会社と連携協定を締結しました。

1. 連携協定締結の目的

I R（Institutional Research：大学自体の調査分析）に関する共同研究の実施、及び、教育に関するデータサイエンスの各種講座の充実を図ることなどについて連携協力することにより、大学教育の改善や人材育成に資することを目的とします。

2. 連携協力事項

- ①本学において、開講するデータサイエンス、ビッグデータ、又は非営利法人のマーケティング等の集中講義に対する講師派遣を行います。
- ②本学において、開講する就職支援講座等に対する講師派遣を行います。
- ③本学において、開講する教職員向けのデータ分析講座等に対する講師派遣を行います。
- ④エンrollment・マネジメント（EM）・I Rに関する共同研究を行います。

3. 協定期間

平成27年3月31日まで。以後1年更新。

4. 具体的な協力活動

- 山形大学から
 - ①I R等に関する実践的なナレッジの提供
- 三菱総研DCS株式会社から
 - ①非常勤講師の派遣
 - ②EMやI Rの分析に関する協力

☆三菱総研DCS株式会社について

- 1970年創業で、金融関連業務で豊富な経験・実績を有する会社
- 2005年からは、三菱総研グループの一員として一体的サービスを展開し、シンクタンク～コンサルティング～ソリューション～BPOの一貫したバリューチェーンを提供できる日本でも数少ない企業集団

（お問い合わせ）

エンrollment・マネジメント部

教授 福島真司

（TEL）023-628-4061

平成26年10月7日
山形大学

リーダーシップ教育を「社会人力育成山形講座」と キャリアサポートセンターが共同で実施

文部科学省平成24年度採択事業「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」(以下、山形講座)では、平成26年度後期に、本学キャリアサポートセンターと共同で基盤教育の授業「リーダーシップ応用1」を開講します。

◆社会に求められる賢いリーダー育成を

今、日本の社会で大きな課題となっているのは賢いリーダーが少ないことです。山形大学では昨年度から「自己実現」をキーワードにリーダーシップ教育を実施し、大きな成果を上げてきました。学生の声や成果を踏まえ、受講生にとって「いかに社会の中でリーダーシップが必要なのか」をより実感をもって学んでもらうため、今年度後期から本学キャリアサポートセンターと共同で授業を開講します。同センターが持つ幅広い人脈から魅力的な講師を多数招き、理論的フレームワーク演習や講師陣との議論などを通し、賢いリーダー育成を目指すプログラムを新たに企画しています。

山形で活躍する、地域を変える(新しい付加価値を生む)、地域を担う新しいリーダーの育成を行います。「キャリア形成と自己実現」「リーダーシップと夢の実現」をキーワードとして、社会人として求められる力、人間的な魅力を磨いて新しい山形創造の一助となる人材育成を目指します。

◆本講座の魅力

- ・キャリアサポートセンターと共同開講により「キャリア」「モチベーション」「リーダーシップ」の観点から授業を展開
- ・12名の豪華なゲスト講師
- ・学生が主体で授業を創り上げる、完全双方向授業
- ・「聞く」「考える」「伝える」「まとめる」「議論する」ことを重視する演習型講義
- ・内省・省察のための禅修行体験
- ・ゆうキャンパス単位互換制度による、他大学・短期大学の学生との交流(多様性への理解)

◆応用編

リーダーシップ応用2ではベトナム・ハノイ市内のベトナム国家農業大学にて、現地学生と山形の学生と共同で演習内容を企画・実施します。(11月中旬実施予定)

(お問合せ先)

山形大学 教育・学生支援部 教授 柴田 孝 (TEL 023-641-2672)
山形大学 小白川キャンパス事務部就職課 (小白川キャリアサポートセンター)
准教授 松坂 暢浩 (TEL 023-628-4899)

スゴイ人たちに会える!!

リーダーシップ応用1 (後期・集中講義)

受講者募集



リーダーシップ応用1スケジュール

10月11日(土)	10月12日(日)	10月18日(土)	10月25日(土)	11月2日(日)
山形大学 小白川キャンパス内教室	山形大学 小白川キャンパス内教室	霞城セントラル F23 市民活動支援センター内会議室	山形大学 小白川キャンパス内教室	久昌寺(上山)
オリエンテーション	講義「キャリアを考える①」	演習「ビジネスフレームワーク①」	演習「ビジネスフレームワーク②」	
 山形大学工学部 高橋 幸司教授	平成25年度 リーダーシップ論 受講生(卒業生)	 秋山鉄工株式会社 秋山 周三社長	 佐藤繊維株式会社 佐藤 正樹代表取締役	 米沢信用金庫 種村 信次会長
 オリエンタル カーペット(株) 渡辺 博明代表取締役社長	 (株)舞台ファーム 針生 信夫代表取締役	 日本航空株式会社 米澤 章執行役員	 山形銀行 三浦 新一郎専務取締役	演習(座禅・写経)
 出羽桜酒造(株) 仲野 益美代表取締役社長	 学校法人 國學院大学 秦 信行教授	 (株)セゾン ファクトリー 齋藤 峰彰代表取締役社長	 NDソフトウェア(株) 佐藤 廣志代表取締役社長	久昌寺 土田 秀穎老師
講義「ビジネスリーダーシップ」	講義「革命型リーダーシップ」	講義「キャリアを考える②」	講義「キャリアを考える③」	演習(作務)
				まとめ

【受講にあたって】

- ・本授業は**基盤教育の後期開講授業**(集中講義・2単位)です。
- ・単位取得を目的とした履修は**3日以上**の出席が条件となります。**定員は40名**です。
聴講のみの場合は、授業の**1週間前**まで下記連絡先までお問い合わせください。
また、9月30日(火)、10月2日(木)15:00~、16:30~いずれも**基盤教育1号館2階121教室**で
科目ガイダンスを行います。履修を希望する方はご参加ください。
- ・授業に関するお問い合わせ、ご連絡は下記担当教員までお願いします。

教育・学生支援部 教授 柴田 孝(デスク: 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階)
TEL: 023-641-2672 E-mail: shibatat@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

本授業は小白川キャンパス就職課(山形大学キャリア教育センター)・松坂准教授と協同で開講します。

リーダーシップ入門1 講師一覧（6月7日、14日、21日、28日開講）

- ・東北公益文科大学 國眼 眞理子教授
- ・株式会社タカハタ電子 安房 毅代表取締役
- ・タカミヤホテルグループ 岡崎 彌平治社長（都合により当日欠席）
- ・山形大学 小山 清人学長
- ・山形大学 安田 弘法理事・副学長

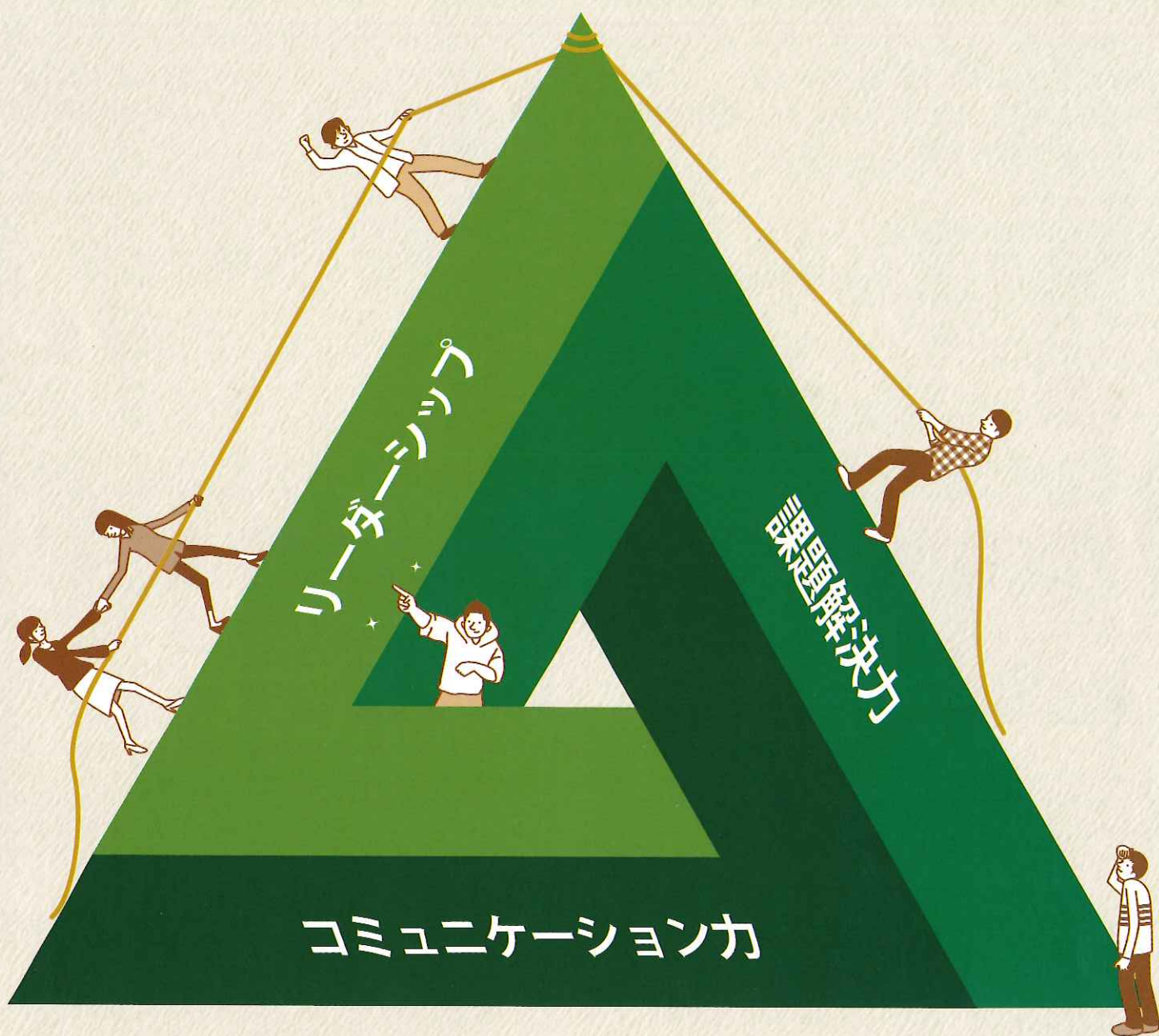
リーダーシップ入門2 講師一覧（7月19日、26日、8月1日、2日開講）

- ・東北大学 福嶋 路教授
- ・経済産業省東北経済産業局総務企画部 遠藤 憲子企画室長
- ・株式会社シェルター 木村 一義代表取締役
- ・NECパーソナルコンピュータ 小野寺 忠司執行役員
- ・ピーキューブ株式会社 成沢 俊子代表取締役社長
- ・株式会社 横山芳夫建築設計監理事務所 横山 英子代表取締役社長
- ・山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター 松田 修教授
- ・山形大学 工学部 城戸 淳二教授
- ・山形大学 工学部 柗 紫乃准教授

リーダーシップ応用2(海外に出かけて学ぶ) スケジュール案(2014.9.8) 事前学習会にて

日時 宿泊地	11月16日(日) ハノイ市内ホテル	11月17日(月) HUA国際学生寮	日時 場所	11月18日(火) HUA国際学生寮	11月19日(水) HUA国際学生寮	日時 場所	11月20日(木) HUA国際学生寮	11月21日(金) HUA国際学生寮	日時 場所	11月22日(土) HUA国際学生寮	11月23日(日) -
5:00			5:00			5:00			5:00		大学発
6:00			6:00			6:00			6:00		移動
7:00			7:00			7:00			7:00	朝市散策 (食材調達)	
8:00			8:00	朝食	朝食	8:00	朝食	朝食	8:00	朝食	8:00 ノイバイ国際空港発
9:00	8:48 山形駅 つばさ76	ホテルチェックアウト	9:00	交流(お互いの国に 対して持っているイ メージについてな ど)	日本人チームで計 画した観光 (案:タンロン水上人 形劇、 ハロン湾、 バッチャン村、 歴史博物館、 ハノイ戦争博物館)	9:00	衣装交換、記念撮 影 (浴衣とアオザイ)	ハノイチームと考 えた観光 日本学生:「何をし たのか」「何を 見たのか」等の目 的を明確にする。	9:00	料理 (食材調達含む。 昼食に作った料理 で食事会兼お別れ 会)	機中
10:00	9:25 米沢駅	JETRO ハノイ事務所見 学	10:00			10:00			10:00		
11:00	移動		11:00	お互いの国の伝統 的な遊び (案:大根抜き、 鬼ごっこ、ケイドロ、		11:00	絵本、紙芝居の紹 介		11:00		
12:00	11:36 東京駅着	バス/タクシー移動	12:00	昼食・大学周辺の市 場散策		12:00	4日目の観光プラン 立て		12:00		
13:00	(JR京浜東北) 12:03 東京駅発 12:07 浜松町着 12:12 浜松町 磯子 行 12:35 羽田空港着	HUA 荷解き、周辺散策、 昼食他	13:00		※HUA学生で希望 があれば参加可。料 金は日本側の学生 で分担する。	13:00	ディスカッション		13:00		
14:00		(HUA学生と顔合わ せ・演習の計画立 て)	14:00			14:00			14:00	日本語クイズ(暫定)	
15:00		自己紹介 (簡易的な名刺交 換)	15:00			15:00			15:00		
16:00	16:35 羽田国際空港発 VN385		16:00	感想の共有		16:00			16:00	さよならパーティー	
17:00			17:00			17:00			17:00		
18:00	機中		18:00	Free	Free	18:00	Free	Free	18:00	宿泊するが、予め料 金を払い、チェック アウトの手続きをす る。	
19:00			19:00			19:00			19:00	荷物を準備	
20:00	20:00 ノイバイ国際空港着		20:00			20:00			20:00		17:48 東京駅着 つばさ93
21:00	バス/タクシー移動		21:00			21:00			21:00		19:56 米沢駅
22:00	ハノイ市内ホテル		22:00			22:00			22:00		20:31 山形駅

文部科学省 平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択
美しい山形を活用した「社会人育成山形講座」の展開



2014

社会人育成山形講座で
ひとつ先の自分へ

ひとつ先の自分へ 社会人力育成山形講座

全体を俯瞰する講義「山形を知り、山形を愛し、山形で働き、山形を担う」を山形大学と東北公益文科大学で開講します。



山形フィールドワーク教育

山形県の地域の魅力(自然・文化・歴史・産業)を体験的に学習します。地元講師の指導やチームでの学習を通じて、コミュニケーション力・行動力・チームワークを育成します。

開講大学:山形大学

平成26年度開講予定授業

- 感じる山形3 ~教科書の向こう側へ~
(民話語り部体験)(赤湯温泉まちづくり体験)(山形の森づくり体験)
(台所と農業をつなぐ地域循環型農業体験)
- 感じる山形4 ~教科書の向こう側へ~
(雪と共に生きる体験)(地域のにぎわいづくり体験)
- 最上川から山形を学ぶ

例えば

こんな授業を開講します

感じる山形 ~教科書の向こう側へ~



山形県の地域の魅力(自然・文化・まちづくりetc)を、担い手の方々の指導により体験的に学習します。教科書に載らない生きた技術や知識に触れます。そして、担い手の先生や他大学の学生との協

働の中で、コミュニケーション力や行動力を向上させ、組織で活動する喜びを経験します。

受講学生からは「担い手の方のように地域に貢献できる人になりたい」「学んだことを今後の人生に生かしていきたい」「山形がもっと好きになった」と感想が寄せられています。

最上川から山形を学ぶ



この授業は、最上川の自然と文化を自分の目で確かめることにより、山形の自然と文化の独自性と多様性を学ぶとともに、河川と人間との相互関係についての理解を深め、自然と人間との共生のあり様を学ぶことを目的としています。

山形を発着点とした1泊2日の巡検を2回行います。1回目は米沢市~長井市~大江町、2回目は中山町~大石田町~最上峡~酒田市を巡り、最上川の上流から下流までの様々な自然・文化遺産を自分の目で確かめていきます。学生の皆さんからは「最上川を巡ることを通じて山形を実感できた」「自分は最上川流域に住んでいるが新たな発見が多かったので、さらに詳しく調べてみたい」などの感想が寄せられました。

山形プロジェクト教育

地域の様々な課題を調査検討し、それに対する提案を行います。さらに課題の現地調査を通して地域の住民と接し、コミュニケーション力と課題解決力の育成を図ります。

開講大学:山形大学・東北公益文科大学・東北文教大学・東北文教大学短期大学部

平成26年度開講予定授業

- 「山形ほっぺ隊」と共に仙山交流を考える
- <楽しく木の根根へ>プロジェクト
- 地域デザインin東沢バラ公園
- 大隈地区地域資源の活かし方
- エコスタジアムプロジェクトを考えよう
- 山形を元気にする企業家に学ぶーホノモノの地域貢献と地域活性化とは何かー
- 「課題解決」入門
- 実践的コミュニケーション学
- 山村の魅力を発見する
- 地域作りとその手法
- 地域と経済
- ボランティア実習
- 地域からの発信

例えば

こんな授業を開講します

地域デザイン in 東沢バラ公園



村山市東沢バラ公園の活性化策(地域課題)について提案することで、地域課題を地域づくりの構想・企画に変える「地域デザイン」を学習します。地域は多くの課題に直面していますが大学教育にとって

は生きた教材です。課題解決への提案をととして地域を学び、自分の社会人力を振り返り、知識の有用性に気付く、ということをこの授業では目指しています。「他大学の学生との授業のメリットを意識できた」「チームで検討することの方が考え方の共有や豊富な意見交換ができることを学んだ」、25年度受講生の感想です。

地域作りとその手法



多くの課題を抱える過疎地域での現地調査をととして、地域課題を発掘し、学生同士での議論や分析を行います。そこから課題解決の糸口を見つけ出し、その成果を現地で発表することを目指します。

また本講義は、前期授業の「地域と経済」での取り組みを踏まえながら、実際に現地の地域作りプロジェクトに参画し、地域作りの視点と手法について体験的に学びます。この授業をととしてコミュニケーション力や課題解決力、プレゼンテーション力等の向上を図ります。山形県鮭川村と同村米(よね)地区を本年度も訪問調査する予定です。

平成25年4月から「社会人力育成山形講座」(山形講座)がスタートしました。

この講座は、文部科学省の平成24年度大学間連携共同教育推進事業に採択された取組「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」です。山形県内の多様な教育資源を取り入れながら、国立私立の枠を越えた山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携した共同教育が立ち上がりました。この共同教育プログラムにより学生の社会人力(コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ)を育成します。

山形起業教育

起業家精神やマネジメント手法、起業に関わる実践的な知識を学習します。さらに起業プロセスの体験を通して課題解決力、リーダーシップ等を育成します。

開講大学:東北芸術工科大学・東北公益文科大学

平成26年度開講予定授業

- 起業論(起業の理論を学ぶ)
- 起業演習(起業の計画を具現化する)
- 起業家ビジネス論(社長の仕事の理論を学ぶ)
- 起業家ビジネス演習(社長の仕事の計画を具現化する)
- アントレプレナーシップ論a-やまがたの若きアントレプレナーから学ぶ、仕事術-
- アントレプレナーシップ論b-ビジネスプランニング
- 社会起業家論

例えば

こんな授業を開講します

起業論(起業の理論を学ぶ)



起業家精神とマネジメントの実態に触れ、「社長」の意識でいきいきと働く人材の育成を目標としています。起業に必要な基礎知識・方法論ばかりでなく、起業後に必要な課題解決方法を実践を踏まえな

から習得していくことを行い、自身の強みと弱みを体感しながら経営の「知恵」を発見します。現役の起業家との議論を通して経営の実態に触れ、自分のビジョンを投げかけるなどの手応えを得る機会を設けます。会社経営を目指している、フリーランスで事業を行っていかうとする人だけでなく、組織の中でリーダーシップを発揮したいと考える人が対象です。

社会起業家論



「地域の課題を解決する具体的方策を学び、社会起業家としての第一歩を踏み出す!」この目的に向かって、受講生一人一人が自分のできることを探していきます。具体的には、まちづくりの主人公の

事例を用いて、「自分が主人公の立場だったら…?」と考え、集まったメンバーと、ディスカッションやプレゼンテーションを繰り返して、理論も取り入れながら、まちづくりの疑似体験をしていきます。「自分で考えて創造・発信することの楽しさや重要性を直接体験できた」という受講生たちが、この授業から一歩を踏み出しています。

リーダーシップ教育

次の時代や社会を切り拓くリーダーシップ意識を作り出します。状況変化が生じて新たな問題に直面する場合の対応能力、チームを牽引できる力を育成します。

開講大学:山形大学

平成26年度開講予定授業

- リーダーシップ入門1(理論を学ぶ)
- リーダーシップ入門2(リーダーから学ぶ)
- リーダーシップ応用1(フレームワークを学ぶ)
- リーダーシップ応用2(海外に出かけて学ぶ)

例えば

こんな授業を開講します

リーダーシップ入門2(リーダーから学ぶ)



リーダーシップ教育は「リーダーシップの理論」「リーダーの持論に触れる」「海外で体験する」で構成されています。リーダーシップ入門2では実際に活躍されているリーダーから直接、体験談や

生き様などを伺い「リーダーシップ」を学びます。

平成25年度は、14名のリーダーに講師をお願いして企業を訪問し、講師と車座になって議論を重ね「何を学んだか」をまとめて発表しました。ポジティブに行動することやチームワークの大切さなどキャリア・デザインに大いに参考になったとの意見が出されました。

リーダーシップ応用2(海外に出かけて学ぶ)



リーダーシップ応用2では海外研修を通して「リーダーシップ」を学びます。今回はベトナム・ハノイ農業大学で研修します。通常の会話やプレゼンテーションは英語です。平成25年度は1年生から4年

生まで8名が参加し、学生同士で「文化交流」「大学付近散策」「食文化交流」などのプログラムを考えました。異文化に触れながら楽しみながら研修ができました。学生たちは「伝える力」「意識する」「チャレンジ精神」の大切さをキーワードとして、この授業で得たことをまとめてくれました。研修後の学生は遅く「一皮むけた」ようです。

■ 社会人力育成山形講座とは



山形人材育成委員会 部会長からのメッセージ

連携取組評価部会 部会長
(一社)山形県経営者協会 専務理事)

長岡 喬



「職業観醸成の場に」

来春に向けた就職説明会に臨む学生を見るにつけ、平成25年度山形講座成果報告フォーラムで、米沢信用金庫理事長の種村信次さんが述べた言葉が思い出される。「将来、どこで、何をするのか。就職先を探す前に、学生はそれを真剣に考えなければならない」。

本県は歴史や伝統に恵まれ、「山形を知り、山形を愛し、山形で働き、山形を担う」人材の育成を目指すうえで絶好の舞台。豊かな自然や文化、温かい県民性が拍車をかける。その中で展開される山形講座は、フォーラムで強調されたように、確たる職業観を醸成するうえで格好のカリキュラムとなるはずだ。

初年度の受講者は478人を数え、上々のスタートダッシュ。だが、まだ生まれて間もない赤子。今後、どう発展させていくか。教育関係者と地域が一体となって取り組まなければならないのは必定だ。

共同教育部会 部会長
(東北文教大学副学長兼学部長・教授)

大川 健嗣



平成26年度の「社会人力育成山形講座」では29科目の授業が組まれています。山形講座には4つの「教育分野」があり、「山形フィールドワーク教育」「山形プロジェクト教育」「山形起業教育」「リーダーシップ教育」の4つです。本講座のねらいは、デスクワーク中心の従来型の講義の枠を超えて、実際に現地に出向き、地域の人びとに会い、時には家庭訪問をし、地域活性化のイベントに参加し、長年地域で培われてきた地域文化に直接接触してもらうことにあります。また地域で活躍している経営者やオピニオン・リーダーたちの経営理念や戦略を学び、実際に「起業」する可能性を学び、自身の立ち位置を探る機会になればと念じています。

お問合せ 大学コンソーシアムやまがた・山形人材育成委員会 (山形大学)

山形県山形市香澄町1丁目3番15号山形むらさきさわビル TEL.023-641-2681 FAX.023-641-2682
e-mail:sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp HP:http://sodateru-y.jp/



山形人材育成委員会

山形大学・山形県立保健医療大学・東北芸術工科大学・東北公益文科大学・東北文教大学・山形県立米沢女子短期大学・羽陽学園短期大学・東北文教大学短期大学部・鶴岡工業高等専門学校・山形県立産業技術短期大学校・山形工科短期大学校

山形県・山形県市長会・山形県町村会・山形県商工会議所連合会・山形県商工会連合会・山形県中小企業団体中央会・(一社)山形県経営者協会

平成26年10月 7日
山形大学

化学の日に化学実験

日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体共同提案で、10月23日を「化学の日」、10月23日を含む週（月曜日～日曜日）を「化学週間」と制定しました。

この「化学の日」に、山形大学で山形市立第八小学校の科学クラブ、25日に蔵王第一小学校で化学実験を行います。

◆化学の日・化学週間について

概要：1. 毎年10月23日を「化学の日」に制定する。

（アボガドロ定数：1molの物質中に存在する粒子の数= 6.02×10^{23} に由来）

2. 毎年10月23日を含む週（月曜日～日曜日）を「化学週間」とする。

目的：社会の方々に化学および化学産業の社会における役割、社会への貢献を理解していただく機会を作る。

目標：「化学の日」「化学週間」の将来像は“国民的な日”“National Day”として全国のいろいろな学校や企業、地域でそれぞれが自発的に化学を盛り上げる活動が行われている状況を作り出すことにある。このため、現在行われているイベントの開催日程をできるだけ化学の日、化学週間におこなっていただくことをお願いすることで、潮流を作り上げていくことを考えている。

◆山形大学の取り組み

10月23日（木）15:10～16:10

場所：山形大学サイタセンター

内容：山形第八小学校科学クラブ「オリジナルクレヨンづくり」

10月25日（土）10:00～11:40

場所：蔵王第一小学校

内容：第3学年親子行事「クロマトグラフィー・アート」



（お問合せ先）

理学部 教授 栗山 恭直

電話023-628-4506

「化学の日」「化学週間」制定について

[概要] 日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体共同提案で、10月23日を「化学の日」、10月23日を含む週（月曜日～日曜日）を「化学週間」と制定いたしました。

[経緯] 社会の持続的発展をはじめ市民生活において、化学の果たす役割は広くかつ大きなものがあります。日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会は1993年から「夢・化学-21」委員会を創設し、夏休み子ども化学実験ショー、化学グランプリ・国際化学オリンピック、化学実験教室など主として高校生、小・中学生を対象として化学の面白さ、素晴らしさを理解してもらう活動に取り組んできました。また全国の大学や研究所、企業などでも一日体験入学や工場・研究所見学、出前実験教室など化学や化学産業についての理解増進・啓発活動に取り組んでいます。

しかし化学、化学産業の役割への理解は十分なものではないのが現状です。このため高校生、小・中学生だけでなく、保護者や一般の市民の方々に向けて化学の理解増進、啓発活動を進めていく必要があります。

そこで夢・化学-21委員会の構成団体でタスクフォースチームを作り、今後の理解増進の方策などについて検討し、下記のように「化学の日」「化学週間」を設け、現在、化学および化学産業の理解増進活動と連動させることによって、社会と化学の関わり、貢献していることを広く市民、社会に広報・周知を図り、化学への理解・啓発を推進していくことにしたものです。

[化学の日・化学週間]

1. 毎年10月23日を「化学の日」に制定する。
(アボガドロ定数：1molの物質中に存在する粒子の数= 6.02×10^{23} 乗に由来)
2. 毎年10月23日を含む週（月曜日～日曜日）を「化学週間」とする。
3. 共同提案団体 公益社団法人日本化学会
公益社団法人化学工学会
公益社団法人新化学技術推進協会
一般社団法人日本化学工業協会

[今後の活動]

1. あらゆる機会を通じて「化学の日」「化学週間」の周知徹底、浸透を図る。
共同提案4団体の広報、イベントでの周知、メディアでの周知活動
2. 「化学の日」に毎年開催の大きなイベントを開催することとはしない（イベント開催が的化してしまうため）。ただ夢・化学-21委員会創設21周年の2014年には『化学の日』『化学週間』になんらかの記念イベントも視野に入れる。
3. 共同提案4団体および大学、企業、化学関連の学会・協会にも呼びかけ、理解・増進諸活動を「化学の日」「化学週間」に開催するよう要請する。
(全国一斉オープンキャンパス、同オープンラボ、同オープンファクトリー)
4. 経済産業省、文部科学省との連携・協力（合意済み）



委員長の招待席

「化学の日」を国民的イベントに

● 玉尾皓平

日本化学会 前会長・理化学研究所 研究顧問

日本化学会, 化学工学会, 日本化学工業協会 (日化協), 新化学技術推進協会 (JACI) の4団体が, 毎年10月23日を「化学の日」, その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」として制定しました。アボガド定数 $6.02 \times 10^{23} \text{ mol}^{-1}$ にちなんだものです。各種イベントに使う缶バッジのデザインもできました。この産学官一体となった化学の普及活動が国民的イベントとなるよう, 会員の皆さんごぞつての参加を呼びかけたいと思います。化学の市民権向上に向けて。



はじめに

Nature 誌は今世紀に入ってから, 繰り返し, 化学の学問としての重要性と市民権向上に向けての力強いメッセージを発信し続けています¹⁾。特に, 2011 世界化学年には, 世界規模の課題解決に貢献する化学の役割と恩恵の一般社会への普及・啓発活動の重要性を。我が国では, 東日本大震災以来, 残念ながら科学技術全般への社会からの信頼は大きく揺らいでいます。信頼回復に向けて, 普及・啓発活動はますますその重要性を増しています。

私たち化学会のこれまでの化学普及・啓発活動は足りなかったのでしょうか? 決してそんなことはありません。化学会では, 1970 年代から「化学への招待」などの活動を開始, 1983 年からは参加型実験教室「楽しい化学の実験室」²⁾ を, そして 1993 年からは上記 4 団体が「夢・化学-21」委員会を設立し, 「夏休み子ども化学実験ショー」, 「化学グランプリ・国際化学オリンピック」などを実施してきました。化学会 7 支部での各種化学実験講座, 化学グランプリ, 体験入学, 出前授業, 化学展などの活動は毎年, 年間 200 件以上, 総参加者数は延べ 2 万人を優に超えています。教育・普及部門の「化学だいすきクラブ」の活動も活発です。化学フェスタで行っていた一般向けイベントは, 昨年からはサイエンスアゴラに移して実施され, 大好評でサイエンスアゴラ賞を受賞しました (写真 1)。また, 全国の大学や研究所, 企業などでも 1 日体験入学や工場・研究所見学, 出

前実験教室など化学や化学産業についての理解増進・啓発活動に取り組んでおられます。

これらの多くの人たちの多彩な活動を, もっと効果的なものにできないか, もっとビジュアルにできないか, 国レベルのイベントにできないか。これが「化学の日」提案の原点なのです。



写真 1 サイエンスアゴラ 2013 での日本化学会イベント「カラーマジック! 不思議な化学実験!」(科学未来館, 2013 年 11 月 10 日)

「化学の日」「化学週間」の制定

「化学の日」の発想は以前からありましたが, 諸般の事情で実現できていませんでした。岩澤会長時代からの産学連携の実質化にむけた, 日化協などとの交流強化の中で具体化が急速に進みました。日化協の高橋恭平会長, 西出徹雄専務理事及び化学会事務局の川島信之常務理事, 瀬田博企画部長らのご尽力にこの場をお借りして感謝したい。2 年前の会長就任時に提案した 2 つの具体的提案を紹介します。

「全国一斉オープンキャンパス」: これが「化学の日」と直結する提案です。各大学・研究機関や化学企業で独自に行っているオープンキャンパスやオープンファクトリーを, 「化学の日」「化学週間」にできるだけ日程を合わせて一斉に実施いただくことで, 国民的イベントとして認知度を高めようとの取組みです。

「『夢・化学-21』の全国統一ブランド化」: 「夢・化学-21」キャンペーンの強化策として, そのロゴマークを意匠登録し, 上で述べたようなこれまでのすべての化学啓発活動にロゴマークを付してビジュアルの向上を目指すものです。

いずれもいわば全国区の活動ですが, 期間限定型で集中的に盛り上げる企画と, 通

年活動型で全国津々浦々いつでも「夢・化学-21」ロゴマーク付きのイベントが行われている、という性格の異なる活動を2つ準備し、足並みをそろえて最大の効果を狙おうとする点が特徴です。提案4団体だけではなく、経済産業省や文部科学省、さらにはマスコミ関係者の賛同も得ており、産学官一体となった初めての本格的な取組みで、化学の啓発活動、市民権獲得にとっての決め手となるものと期待しています。

「化学の日」「化学週間」のイベントは？

「化学の日」を長く定着させるためには、活動現場に新たなロードを課さないことが重要と考えます。新たに企画するのではなく、現在行われているイベントの開催日ができるだけ「化学の日」「化学週間」の日程に合わせていただくことで、最大の効果を上げようとの考えです。すでに、各支部や産業界に対して、日程調整のご協力をお願いしています。ただ、初年度の今年は、「化学の日@開成学園」「化学週間@東京大学」「子ども実験ショー@近畿」などのキックオフイベントを企画中です。また、各種一般紙や月刊誌「ニュートン」「化学」「現代化学」「子供の科学」などへのPR記事掲載の企画も進んでいます。

提案者としてのイメージは、「化学の日」には、北から南まで各都道府県で少なくとも1件は普及活動が同時進行形で行われること、それらの情報をプレス発表してマスコミに取り上げてもらうこと、望むらくは、オープンファクトリーなどには、総理大臣や関連省庁の大臣クラスにも参加してもらうこと、さらには、写真1のような安全な参加型化学マジックショーなどをショッピングモールなどでも実施すること、などです。これまでのデパートなどでの「化学展」に加えて、日常生活に溶け込む形でのイベントの普及が重要と思います。「化学の日」の認知度を上げ、国民的イベントとするためにはそれなりの仕掛けと努力が必要なのです。

アメリカ化学会の活動を参考に

米国では、National Mole Foundationが¹10月23日をMole Dayと決め、モグラ(mole)

のキャラクターが北米の各種イベントを盛り上げています。アボガドロ数に忠実に、午前6時2分から活動が開始されるという徹底ぶりです。このことを日化協関係者らに話したら、では、日本では、午後6時2分に乾杯してははじめよう！などと盛り上がったことでした。アメリカ化学会ACSではNational Mole Dayを含む週を「National Chemistry Week」に制定しています。ACSでこの活動を永く率いてこられたProf. Bassam Z. Shakhshiri(2012年ACS会長)とACS2013春季年会でお会いしたとき(写真2)の彼の次の一言が印象的でした。“ショッピングモールで演示実験ができるようになるのに15年かかりましたよ…”



写真2 2012ACS会長Bassam Z. Shakhshiriの胸に光る「SCIENCE IS FUN」(http://scifun.org/参照)の缶バッジ(ニューオーリンズ、2013年4月7日、許可を得て掲載)

おわりに: “毎日が「化学の日」を目指して

「化学の日」「化学週間」が市民権を得て、ショッピングモールで活動ができるようになるまでには、私達のたゆまぬ努力が必要ですね。会員の皆さんごぞつての参加をお願いする所以です。筆者は、私達の啓発活動の基本は、井上ひさし氏の作風「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に書く」の精神を実行することにある、と常々伝えてきました。このような努力を続けることで、一般社会での化学、ひいては科学技術全般の理解が高まり、信頼回復にもつながるものと確信するからです。最近書かせていただいた「化学経済」誌の巻頭言に、“毎日が「化学の日」となることを目指して”と表記しました³⁾。化学が国民生活に溶け込む日が到来することを目指して、「化学の日」缶バッジを胸に、共に努力しようではありませんか。

- 1) Nature 2001, 411, 399; 2006, 442, 500; 2011, 469, January 6.
- 2) 若林文高, 化学と工業「委員長の招待席」2013, 66, 922.
- 3) 玉尾皓平, 化学経済 2014, 7月号巻頭言「視界」.



たまお・こうへい
理化学研究所 研究顧問
1970年京都大学大学院
工学研究科合成化学専攻
博士課程退学, 1971年
工学博士。京都大学工学
部助手, 助教授を経て,
93年 京都大学化学研究
所教授。2005年理化学
研究所フロンティア研究
システム長, 08年同基
幹研究所長, 13年より
現職。12度~13年度日
本化学会会長。専門: 有
機金属化学, 有機合成化
学。日本化学会進歩賞
(1977) 日本化学会賞
(1999) アメリカ化学会
F.S. キッピング賞
(2002), 東レ科学技術賞
(2002), 朝日賞 (2003),
紫綬褒章 (2004), 日本
学士院賞 (2007) など受
賞。文化功労者顕彰
(2011)。主な著書: 大学
院講義有機化学 I, II,
有機金属反応剤ハンド
ブック, 21世紀の有機
ケイ素化学, 一家に1枚
周期表, 現代ケイ素化学。

平成26年10月 7日
山 形 大 学

第48回八峰祭を開催！

山形大学の大学祭、第48回八峰祭（やつみねさい）を10月18日(土)・19日(日)に開催します。今年のテーマは『L∞P together』。山大生はもちろん、地域の方々、そして山形との繋がりを意識して、八峰祭を通して山形大学、山形全体を盛り上げていきます。

八峰祭は、山形大学小白川キャンパスで毎年10月下旬に開催される大学祭の名称です。小白川キャンパスは周りを数々の山に囲まれており、自然豊かな環境で学生たちが主体的に活動しています。その様子をイメージし「八峰祭」という名前がつけられました。サークル・研究発表、学生による出店・受験生相談室など数多くのイベントが催され、毎年活気あふれる大学祭となっています。

今年度は、1年生から4年生まで総勢約60名の実行委員が企画・運営に励んでいます。さまざまな企画をご用意し、八峰祭当日は、来場者の皆様に最高の笑顔を届けます。

◆内 容

日 時:10月18日(土)・19日(日)

場 所:山形大学小白川キャンパス

催 し:

山形大学のサークルによる飲食ブース、ステージ発表

18日開催の無料アーティストライブ

リアル脱出ゲーム、スタンプラリー、マニアッククイズ、TVゲーム対決、米沢牛の串焼き販売など、今年度の目玉は、ミス山大・ミスター山大コンテストです。

(お問合せ先)

第48回八峰祭実行委員会

代表 室橋 子龍

Mail info@yatsuminefestival.com

Yatsumine
Festival
2014

2014年10月
18日(土)(10:00~21:00)
19日(日)(10:00~16:00)

第四八回山形大学祭

繋がる。
輪になる。
夢見る道の先が
見たくなる。

今年もやります！
Mr. & Ms. コンテスト
他企画多数！！！！

八峰祭 HP URL : <http://www.yatsuminefestival.com/>
Twitter アカウント : Yatsumine_Fest
主催 : 山形大学第 48 回八峰祭実行委員会

今年のアーティストライブは -
2014年 さくらんぼテレビの
テーマソング『Tomorrows』を
歌う BREATHE のお二人！



HP

山形大学の大学祭2014

- ◆ ^{あづまさい}吾妻祭（米沢キャンパス） 10月11日（日）～13日（月）

吾妻祭は、山形大学工学部と米沢女子短期大学、米沢栄養大学が合同で行っており、今年で20年目を迎えます。1日目は米沢女子短期大学、2、3日目は山形大学工学部で開催されます。

 - テーマ：Have Fun!
 - 主な企画：アーティスト等によるライブ(ねごと、ワカバ、小島よしお)、屋台、展示、フリーマーケット、お化け屋敷、ゲーム大会など

- ◆ ^{やつみねさい}八峰祭（小白川キャンパス） 10月18日（土）～19日（日）

小白川キャンパスで毎年行われており、今年で48回目の開催。

- ◆ ^{かくじゆさい}鶴寿祭（鶴岡キャンパス） 11月2日（日）～3日（月）

鶴岡キャンパスで行われる農学部のお祭り。

 - テーマ：「FUN 謝感激雨あられ」
 - おもなイベント：チャレンジ企画、吹奏楽演奏、バンド演奏、ダンス、模擬店などのほか、附属農場等で栽培された野菜や果物等の即売

平成26年10月7日

山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. ARKEMA(アルケマ)社と山形大学との連携調印セレモニー、臨時学長記者会見の開催

山形大学は、有機エレクトロニクス研究センターを中核に、有機エレクトロニクス分野の国際的研究拠点化を進めてきており、海外との学術・ビジネス交流を展開してきました。この度、フランススペシャリティケミカルのグローバル企業アルケマ社と有機エレクトロニクス研究のグローバル展開と幅広い人材育成交流で、コレット副社長・CTO他2名及びフランス原子力庁 最先端技術局日本代表等を迎え、連携調印セレモニー及び臨時学長記者会見を開催します。

◆日時：10月17日（金）16:00～17:00

◆内容：連携調印セレモニー・臨時学長記者会見（日・英逐次通訳）

◆場所：山形大学小白川キャンパス 事務局4階 第二会議

2. 未来をつくる”meeting”参加者募集

本イベントは、平成26年度山形県ライフデザイン形成情報発信・交流事業の一環として実施されるもので、本学のエンロールメント・マネジメント部福島研究室が協力しています。

山形で、もっと楽しく働いて、豊かに暮らせるよう、学生から、子育て中のお母さん、企業人まで、さまざまな立場の男女が、ワールドカフェ方式で、意見を述べ合うイベントです。なお、当日参加者の意見をまとめて、今後の県の政策に活かされる予定です。

◆日時：10月13日（月・祝日）14:00～16:00

◆場所：山形大学小白川キャンパス

*事前申込が必要です

3. 農学部研究シーズ説明会・ビジネスマッチの開催

農学部では日頃の研究成果を地域社会に発信するために『農学部研究シーズ集』を作成しており、このたび、その内容をよりわかりやすく教員が説明します。その後の「ビジネスマッチ」では、教員との面談形式でマッチングの可能性を探ります。農学部で行っている研究内容にご興味のある方、ビジネスパートナーとして相談できる教員を知りたい、という方々に、是非この機会をご利用いただきたいと思います。

◆日時：10月24日（金）13:00～17:00

第1部 研究シーズ説明会 13:00～15:05

第2部 ビジネスマッチ（要事前予約）15:15～17:00

◆場所：山形大学農学部（鶴岡キャンパス）

4. 保健管理センター公開講座「生活習慣病について—概要と対策—」の開催

山形県の死因の上位を占めているがん、心疾患、脳卒中などは若いうちから正しい生活習慣を身に着けることが重要です。本学学生も高血圧や脂肪肝と診断される学生が多く、早急な対策が必要です。そこで、保健管理センターでは、「生活習慣病について—概要と対策—」をテーマに公開講座を開催します。講師は、保健管理センターの富樫 整所長。

本講座では、最近の大学生のデータを交えて健康把握のためのバイオマーカーや遺伝子解析の結果をおり交ぜ、分かりやすくお話しします。

◆日 時：11月11日（火）18：00～19：30

◆場 所：山形大学基盤教育1号館講義室

◆対象者：本学学生，職員，一般市民

※受講料無料。11月7日（金）まで保健管理センターへお申し込みください。

5. オーストラリアの最先端大型電波望遠鏡を山形から操作し、リアルタイムの研究を体験する高校生のためのワークショップの開催

この企画は、オーストラリアの革新的な教育プログラムで、世界的な研究が日夜実施されているオーストラリア「パークス電波望遠鏡」を山形から遠隔操作し電波を発する天体を観測するというもの。

生徒は、オーストラリアから派遣されたプロの天文学者の指導の下で観測を体験。本物の科学研究を体験できるプログラムです。山形大学はこの天文台と深い関係があり、山形大学の教員、大学院生が指導に参加します。天文学、電波の知識は丁寧に説明しますので、特別の予備知識は必要なく、意欲のある高校生を募集します。

◆日 時：11月15日（土）10：00～15：00

◆場 所：山形大学小白川キャンパス理学部内

◆対象者：高校生（定員25名）※事前申し込みをお願いします。

6. 山形大学人事異動(平成26年10月1日)

本学の平成26年10月1日付け人事について、事務職課長以上の役職者の異動内容を公表します。地域や企業の皆様と深く関わりのある本学の担当者等について知っていただくために、今後も、役員、部局長及び事務職課長以上の役職者の異動について、随時お知らせします。

※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

◎ホームカミングデー等の開催

①地域教育文化学部 資料パネル展示会

日時：10月13日（月）10：00～14：00

会場：山形国際ホテル（同窓会記念式典会場のロビーでの同時開催）

②人文学部 ティーデマンふすま賞授与式・特別講演会・「3年目の卒業祝い」等

日時：10月18日（土）13：00

場所：人文学部1号館301教室等

③理学部 講演会・研究室公開

◆講演会「ティーデマン・ふすま賞、理学系の受賞論文講演」

日時：10月18日(土)10:30～12:00

場所：山形大学理学部 11番講義室

◆理学部研究室公開

日時：10月18日(土)、19日(日)

◎地域教育文化学部公開講座「家族で考える理科教室」を開催

本講座は、いつも目にふれているため「当然」と考えていて、改めて「どうしてそうなるの?」「どうしてそう考えるの?」と問われても戸惑ってしまうような日常的現象を取り上げ、その現象の「しぐみを解く」ための実験や観察の方法を、家族で考え、家族で実験や観察を行うことで、『自然科学の方法』を「再認識」してもらうことをねらいとしています。

◆日時：10月25日、11月1日、11月8日 全日土曜日 13:00～15:00

◆場所：地域教育文化学部2号館 自然科学多目的第1及び2実験室

◆対象：小学校3年生以上の児童・生徒とその家族（定員20組：先着順）

◆受講料：1組2,000円（材料費・保険料込み）

◆申込：10月17日（金）まで電話またはメールでお申し込みください。

平成26年10月7日

山形大学

<臨時記者会見 事前予告>

仏・アルケマ社 有機エレクトロニクスのグローバル展開で山形大学も連携拠点に加え研究開発を加速

有機エレクトロニクス研究のグローバル展開と幅広い人材育成交流で

仏・アルケマ社 コレット副社長・CTOを山形大学に迎え

10月17日(金)16:00 連携調印セレモニー・臨時学長記者会見を開催

山形大学は、有機エレクトロニクス研究センターを中核に、有機エレクトロニクス分野の国際的研究拠点化を進めてきており、海外との学術・ビジネス交流を展開してきた。この度、フランス スペシャルティケミカルのグローバル企業アルケマ社と有機エレクトロニクス研究のグローバル展開と幅広い人材育成交流で、10月17日(金)16:00 コレット副社長・CTOを迎え連携調印セレモニー及び、臨時学長記者会見を開催します。

1. 経緯

アルケマ社（フランス スペシャルティケミカルのグローバル企業 トムソン ロイター社が発表した 世界で最も革新的な企業・研究機関100社に3年連続（2012-2014）選出）は、有機エレクトロニクス分野で、フランス・原子力庁CEA、フランス・ボルドー大学と連携し展開してきたが、今後のグローバル展開を目指し、この度山形大学を加え4拠点とすることで、研究開発を加速させていくことにした。

一方、山形大学はグローバルな研究展開及び人材育成を行うなかで、アルケマ社とはすでに約7年前から工学分野で研究連携とその推進・人材育成の為に、アルケマ社のフランス研究所への大学院生海外インターンシップ派遣・京都テクニカルセンターへの大学院生国内インターンシップ派遣などの連携・交流をしてきた。

このような経緯で、有機エレクトロニクスの分野、及び、理系文系のグローバル人材育成にむけて山形大学とアルケマ社との連携をさらに深めるため連携調印をすることになった。

2. 連携調印セレモニー・臨時学長記者会見（日・英逐次通訳）

日時 平成26年10月17日（金曜日）午後4時から午後5時

場所 山形大学 小白川キャンパス 事務局棟4F 第二会議室

最寄駅 山形新幹線 山形駅 東口 タクシー約10分

別紙 参考資料

- アルケマ社紹介
- 臨時記者会見 会場
- 臨時記者会見 出席者予定者

お問い合わせ先

山形大学 有機エレクトロニクス
研究センター

副センター長 高橋辰宏

電話：0238-26-3585

参考資料

○アルケマ社紹介

トムソン・ロイター社 世界の最も革新的な企業・研究機関100社に3年連続選出

<http://www.arkema.co.jp/jp/media/news/news/100/>

<http://ip-science.thomsonreuters.jp/press/release/2013/TOP100/>

2004年10月1日にフランスの石油メジャーTOTALグループの化学部門であるアトフィナの再編により誕生したのがARKEMA社（本社フランス）です。全世界での売上高61億ユーロ、従業員数約14,000名で世界40ヶ国で事業展開を行い、91の製造拠点、京都テクニカルセンターを含む10の研究・開発拠点を擁しています。

高機能性材料・特殊工業製品・塗料の3つが主要な事業領域

世界トップシェア製品としては、ポリビニリデンフロライド（PVDF）、特殊ポリアミド、含硫黄化学品、フッ素系ガスなどがあり、売上の90%が、世界をリードする（シェア1位から3位）製品を製造している。

○臨時記者会見 会場



○臨時記者会見 出席予定者

【ARKEMA（アルケマ）】

Dr Christian COLLETTE (Vice President R&D, CTO)

(クリスチャン コレット氏 副社長（研究開発担当）兼CTO)

Dr Ian CAYREFOURCQ (Director of Emerging Technologies)

(イアン キャイルフルク氏 最先端技術ディレクター)

Dr Atsushi MIYABO (General Manager, Kyoto Technical Center)

(宮保淳氏 京都テクニカルセンター 所長)

【CEA（フランス原子力庁）】

Mr Bruno PAING (Representative of CEA Technology Research Division in Japan)

(ブルノ パン氏 フランス原子力庁 最先端技術局 日本代表)

Mr Yann GALLAIS (Deputy Representative of CEA Technology Research Division in Japan)

(ヤン ガレ氏 フランス原子力庁 最先端技術局 日本副代表)

【山形大学】

小山清人 学長

深尾 彰 理事・副学長（研究担当）

大場好弘 理事・副学長（社会連携担当）

時任静士 卓越研究教授 副センター長

有機エレクトロニクス研究センター

高橋辰宏 工学部学部長特別補佐 副センター長

有機エレクトロニクス研究センター（日英逐次通訳）

PROFILE 会社概要

アルケマ株式会社

本 社 〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 15 階
 TEL 03-5251-9900 FAX 03-5251-9930
京都テクニカルセンター 〒600-8815 京都府京都市下京区中堂寺薬田町 93
 京都リサーチパーク SCB #3
 TEL 075-326-7431 FAX 075-326-7524
横 浜 事 業 所 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸 134
 横浜ビジネスパーク テクニカルセンター 1 階
 TEL 045-339-5220 FAX 045-339-5224

資 本 金 10 億円
設 立 1974 年 (昭和 49 年) 2 月 19 日
代表取締役社長 ドゥニ・テュアル
年 商 178 億 4,900 万円 (2013 年度)
株 主 ARKEMA ASIE SAS (France) 100%

主要取扱製品

- 化学品本部
 - ジベンジルトルエン
 - アクリル酸エステル (メチル、エチル、ブチル、2 エチルヘキシル)
 - PMMA ● フッ素化合物、各種フルオロカーボン
 - 水加ヒドラジン及びその誘導体
 - 各種有機硫黄化合物 (各種メルカプタン、メタンスルホン酸、チオグリコール酸 及びエステル)、アミン類、各種溶剤
 - 機能性添加剤 (ナノストレングス、板ガラス用コーティング剤、ガラス瓶用コーティング剤、樹脂改質・強化剤)
 - 活性炭、モレキュラーシーブ ● 製紙・塗料用添加剤、その他 特殊添加剤
 - 紫外線・熱硬化樹脂
 - フッ素樹脂 (PVDF) ● 機能性ポリオレフィン
- スペシャルティポリアミド本部
 - ポリアミド 11 (ペレット及びパウダー) ● ポリアミド 12 (ペレット及びパウダー)
 - ポリアミド 10.10 ● ポリアミド 10.12 ● ポリアミド 6.10 ● ポリアミド 6.12
 - キャスターオイル誘導体 ● ポリアミド共重合体 ● ポリアミドエラストマー

ARKEMA (France)

本 社 420, rue d'Estienne d'Orves, 92705 Colombes Cedex, France
会長 兼 最高経営責任者 Thierry Le Hénaff
グループ従業員数 13,908 名 (2013 年 12 月末現在)
グループ売上高 61 億ユーロ (2013 年度)
研究開発拠点数 10 ヶ所 (フランス、米国、日本、中国)
製造拠点数 90 ヶ所 (欧州、北米、アジア、その他)

東京本社



京都テクニカルセンター



横浜事業所



山形くらし
いいん会

YAMAGATA
GOOD LIFE STYLE
COMMITTEE



●テーマ/山形で安心して結婚、子育てするには？

自然が豊かで、食べものがおいしい。人がやさしくて、ゆったり暮らせる山形県。山形くらしいいん会は山形の良さを再認識することを目的として発足しました。私たちが一緒に、山形での就労、結婚、妊娠、出産、子育てを考えませんか？当日は参加者同士でディスカッションをしましょう！プチプレゼントあります。

未来をつくる“meeting”参加者募集

2014
OCTOBER

10.13

祝
MON

14:00~16:00 (受付 13:30~)

●会場/山形大学小白川キャンパス

●主催/山形県子育て推進部子育て支援課

●協力/山形大学エンロールメント・マネジメント部福島研究室、株式会社ファンファン

●問い合わせ先・申し込み・企画/株式会社アイ・エム・シイ TEL.023-686-9575 e-mail info@way-imc.co.jp

参加無料 定員50名
(定員になり次第締切)

●参加条件/10代後半~
40代までの方(要事前申込)

託児有

6ヶ月以上(無料、要事前申込)

PRESENT



つや姫
150g
パック



INFORMATION, MEDIA & COMMUNICATION

研究シーズ 説明会・ ビジネスマッチ

平成26年10月24日(金)

【第1部 研究シーズ説明会】

農学部の研究シーズについて教員がわかりやすく説明します

時間: 午後 1:00～3:05

会場: 302 講義室(3号館3階)

【第2部 ビジネスマッチ】

教員との面談形式によりマッチングの可能性を探ります ※要事前予約

時間: 午後 3:15～5:00

会場: 会議室(1号館2階)、小会議室(1号館1階)

研究シーズとは？

シーズとは seeds(種)のことで、“研究シーズ”とは新たな産業を生み出す種や芽となる研究、事業化が見込まれる開発研究のことを言います。農学部では日頃の研究成果を地域社会に発信するために『農学部研究シーズ集』を作成しておりますが、このたび、その内容をよりわかりやすく教員が説明いたします。農学部で行っている研究内容にご興味のある方、ビジネスパートナーとして相談できる教員を知りたい、という方々におかれましては、是非この機会をご利用ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先: 山形大学農学部企画広報室

TEL0235-28-2910 FAX0235-28-2812

E-mail: nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

日 時：平成 26 年 10 月 24 日(金) 午後 1:00 開始

会 場：山形大学農学部（鶴岡市若葉町 1-23）

参加費：無料

参加ご希望の方は下記必要事項を FAX、E-mail または、お電話にてご連絡ください。

電話・FAX でお申し込みの方

TEL0235-28-2910

FAX0235-28-2812

メールでお申し込みの方

nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※ メールでのお申し込みの際には、件名に「研究シーズ説明会申し込み」と記載願います。

参加申込書

申込締切／平成 26 年 10 月 10 日(金)

事業所等	
住所	〒
TEL／FAX	
E-mail	
ご参加者名(役職名)	

第 1 部 研究シーズ説明会

参加します

参加しません

第 2 部 ビジネスマッチ

参加します

参加しません

※ ビジネスマッチに参加の方は面談希望教員又は相談したい内容などを記載願います。折り返し担当者より連絡を差し上げ、面談時間を調整させていただきます。(シーズ説明会を聞いてからの面談お申し込みも可能ですが、事前予約優先となりますことをご了承願います。)

平成26年度 山形大学保健管理センター 公開講座

生活習慣病について

—概要と対策—

長期にわたる生活習慣の歪みは、目に見えない形で心身の異常をもたらします。

がん、心疾患、脳卒中は、山形県の死因の上位を占めており、若いうちから正しい生活習慣を身につけることが重要です。

山形大学学生においても、高血圧や脂肪肝と診断される学生が多く、早急な生活習慣病対策が必要です！

本公開講座では、最近の大学生のデータを交えて、健康把握のためのバイオマーカー（血圧などの生体的指標のこと）や遺伝子解析の結果をおり混ぜ、分かりやすくお話しします。

奮ってご参加ください！



【日時】 11月11日（火） 18:00~19:30

【場所】 山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館講義室

【対象】 一般市民、大学職員、学生 先着100名

【受講料】 無料

【講師】 保健管理センター所長・教授 富樫 整

【申込先】 山形大学 保健管理センター事務室

住所・氏名・連絡先を記入の上、

FAXまたはEメール、電話などでお申込みください。

☎ 023-628-4150 FAX 023-628-4157

Eメール gshosastu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

受講申込書

山形大学保健管理センター公開講座の受講を申し込みます。

ふりがな お名前		性別
		男・女
ご住所	〒 -	
連絡先電話番号	ご自宅： 携帯電話：	
ご職業		
メールアドレス	@	
今後の保健管理センターの 公開講座・セミナー等の案内 希望の有無	有	無
○事前に質問のある方は、記入願います。		

《個人情報の利用について》

ご提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。

ただし、上記公開講座等案内希望が有の場合には、本学からご案内をお送りいたします。

山形大学人事異動(平成26年10月1日)

<部課長>

職名	氏名	前職
エンロールメント・マネジメント部 EM企画課長	鈴木 直克	エンロールメント・マネジメント部 EM企画課副課長
小白川キャンパス事務部総務課長	奥山 利弘	工学部総務課長
工学部総務課長	関野 雅彦	総務部人事課副課長
工学部学務課長	高橋 淳	工学部学務課副課長

山形大学地域教育文化学部ホームカミング 資料パネル展示会

日時：平成26年10月13日（月）10:00～14:00

場所：山形国際ホテル3階ロビー

内容：

パネル展示

- ◆学部概要
- ◆山形新聞コラム「地域×学び」
- ◆研究紹介ポスター
- ◆学生・教育
- ◆男女共同参画推進パネル展

資料展示



同窓会記念式典会場のロビーでの
同時開催となります。

お問い合わせ先

山形大学地域教育文化学部事務室

電話：023-628-4304

E-mail：

kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

人文学部ホームカミングデー2014

2014.10.18 (土)

時間：12:30～受付開始 13:00～開会
場所：山形大学人文学部1号館301教室

<プログラム>

※ 第1～3部：200名・参加費無料／第4部：100名・会費2,000円

13:00ー 開会の辞

13:10ー 第1部 ティーデマンふすま賞授賞式

13:40ー 第2部 特別講演会

「三陸鉄道の復活を語る ～山形大学卒業の社長として～(仮)」

14:50ー 模擬裁判実行委員会より12月公演のお知らせ

休憩

15:10ー 第3部「3年目の卒業祝い」

①「祝いの色紙」授与

②祝辞

③卒業生代表の挨拶

④トークセッション「学生気分をもう一度」

司会：元木 幸一副学部長

パネリスト：人文学部卒業生、人文学部在学学生、人文学部教員(予定)

16:40ー 閉会の辞

17:00ー 第4部 懇親会 兼 2011年3月卒業・修了を祝う会

会場：厚生会館

会費：2,000円

東日本大震災から三年：
卒業生の皆さんに贈りたい
「おめでとう」と「おかえりなさい」

平成22年度人文学部卒業生、
社会文化システム研究科修了生の皆様、
ふすま同窓生の皆様、学生、教職員、
一般市民の皆様のご参加を
心よりお待ちしております。

<お申込み方法>

①申込サイト、②メール、③電話、④FAX、⑤郵送の
いずれか。※詳細は裏面をご覧ください。

<お申込み、お問合せ先>

担当：人文学部事務室 樋口

電話：023-628-4203 FAX：023-628-4212

E-mail：jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

★今年の2大プログラム★

- ・3年目の卒業祝い
- ・三陸鉄道社長による特別講演

特別講演会 (13:40ー)

「三陸鉄道の復活を語る
～山形大学卒業の社長
として～(仮)」

講師

望月 正彦 氏

三陸鉄道株式会社
代表取締役社長
(1974年人文学部卒業)



<お申込み方法>

①下記申込サイト、②メール、③電話、④FAX、⑤郵送のいずれかでお申込みいただけます。

(申込サイトURL) <http://kokucheese.com/event/index/198351/>

※右のQRコードからもアクセスできます。



申込サイトQRコード

FAX・郵送にてお申込みいただく場合は下記に必要な事項を記入し、表面の<お申込み、お問合せ先>宛にお送りください。

「ホームカミングデー2014」参加申込用紙

山形大学人文学部事務室 行き

FAX:023-628-4212

フリガナ		★性別
氏名		男・女
住所	〒	
連絡先	TEL:	
	E-mail:	
★所属	1. 平成22年度人文学部卒業生、社会文化システム研究科修了生 2. 旧制山形高校、新制山形大学文理学部・人文学部卒業生 3. 人文学部学生、他学部学生、教職員 4. 一般市民	
(卒業)学科 または (修了)専攻		
卒業年度	平成	年度
所属ゼミ	ゼミ名:	／担当教員: 先生
★懇親会出欠	参加します ・ 参加しません	
メッセージ	※このメッセージは当日使用させていただくことがありますのでご了承ください。	

・「★」マークの欄は、いずれか該当するものに○をつけてください。

・申込者が多数の場合は、お手数ですが本用紙をコピーしてご利用ください。

・本用紙にご記入いただいた情報は、今回の「ホームカミングデー2014」へ参加するために必要な事務連絡等及び参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

理学部ホームカミングデー 2014

申込不要!

■理学部講演会 10月18日(土)10:30 ~ 12:00

場所：山形大学理学部 11番講義室

「ティーデマン・ふすま賞、理学系の受賞論文講演」

理学部ホームカミングデーでは、最近の学生の研究成果を紹介するため、今年度のティーデマン・ふすま賞受賞論文についての講演会を行います。

※ティーデマン・ふすま賞は、人文・理学系（人文学部、理学部および関連研究科）における昨年度の卒業論文・修士論文を対象に募集し、応募論文の中から特に優れた論文と認められた論文に対して、ふすま同窓会が授与する賞です。

■理学部研究室公開

10月18日(土) 下記公開時間帯中は、いつでも見学可能です。

- 10:00~12:00 脇 研究室「和算家会田安明の紹介」
- 10:00~16:00 佐々木・大西・北浦研究室「物質の不思議体験」
- 10:00~16:00 大谷研究室「地球と共に生きる”もの創り”」
- 10:00~16:00 奥野研究室「Let it go! ありのままの研究室を覗いてみよう」
- 10:00~15:00 中内研究室「クラゲとプラナリアを用いた原始的筋細胞の構造と機能の研究」
- 10:00~15:00 宮沢研究室「陸上植物の環境応答と形態形成機構の研究」
- 13:00~15:00 塩見研究室「素数の規則性」
- 19:00~21:00 柴田研究室「やまがた天文台・宇宙を観察しよう！」

※やまがた天文台での見学につき受付と参加料200円が必要です。

20:15 までにご入場下さい。

10月19日(日)

- 10:00~16:00 横山研究室「植物と他の生物との関わりが導く植物の進化を考える」
- 10:00~16:00 栗山研究室「環境にやさしい有機合成」
- 10:00~16:00 ジョルダン研究室「様々なバリエーションに富む小さな小さな化石の世界」

問い合わせ先：山形大学理学部事務室

E-mail koukai@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

電話 023-628-4505

理学部ホームページ

<http://www-sci.yamagata-u.ac.jp/index.html>

自家用車でのご来場はご遠慮ください。

家族で考える理科教室

～ 内 容 ～

本講座は、いつも目にふれているため「当然」と考えていて、改めて「どうしてそうなるの?」「どうしてそう考えるの?」と問われても戸惑ってしまうような日常的現象を取り上げ、その現象の「しくみを解く」ための実験や観察の方法を、家族で考え、家族で実験や観察を行うことで、『自然科学の方法』を「再認識」してもらうことをねらいとしています。そして、食事や団らんのときに、家族みんなで、日常生活でごく普通にみられる現象を「不思議だな?」「どうしてなんだろう?」と考えたり、調べたり、試したり、『自然科学の方法』で弾む「理科大好き家族」が、少しでも増えてくれればいいなと考えています。

日時 平成26年10月25日(土)、11月1日(土)
11月8日(土) 13:00～15:00

受講対象 小学校3年生以上の
児童・生徒とその家族

場所 山形大学地域教育文化学部2号館
自然科学多目的第1及び2実験室

定員 家族20組(先着順)

申込 平成26年10月17日(金)まで
電話またはメールにてお申込ください。

受講料 1組2,000円
(材料費・保険料込み)

※お申込の際は、以下の内容をお知らせください。
・氏名(ふりがな) ・参加人数 ・年齢 ・性別 ・郵便番号 ・住所 ・電話番号

◆第1回 10月25日(土) 13:00～15:00

テーマ 「本物の水晶玉はどれ?」

光の「偏光」という性質を利用した実験を行います。

また、万華鏡を作り、「偏光」が生み出す色鮮やかな世界をのぞいてみましょう!

講 師 山形大学地域教育文化学部准教授 津留 俊英

◆第2回 11月 1日(土) 13:00～15:00

テーマ 「キッチンサイエンス」

台所にあるものを使って、ふしぎで楽しい実験をします!

講 師 山形大学地域教育文化学部教授 石井 実

◆第3回 11月 8日(土) 13:00～15:00

テーマ 「自然災害を学ぶ ー山崩れや土石流、液状化などの実験ー」

近年頻発している土砂災害等、自然災害のメカニズムについて実験を通して学びます!

講 師 山形大学地域教育文化学部教授 川邊 孝幸